

# 福祉みやぎ

2020 9 月号  
vol. 611

## CONTENTS (主な内容)

- P2 特集**  
「高次脳機能障害をご存知ですか」
- P4 Heart&Works**  
「障害のある方の「働く」を応援します!」

- P6** ひと・まち・こころ
- P7** グッジョブFUKUSHI
- P8** ちいきをつなぐ
- P9** 市町村社協レポート
- P10** 復興宮城のいま
- P11** 会長就任のあいさつ  
こんなことやってます
- P12** 県社協掲示板



作者 障害者支援施設 ふぼう (村田町) 利用者様

福祉みやぎ

vol.611

令和2年

9月15日 発行

編集・発行/社会福祉法人宮城県社会福祉協議会 〒980-0011 仙台市青葉区上杉1-2-3 TEL 022-225-8476(代) FAX 022-268-5139  
印刷/株式会社ソノバ 奇数月15日発行 URL <http://www.miyagi-sfk.net/>

## 県社協掲示板

Information

### ● 温かい真心をありがとうございます

下記の方々から本会に寄附金をいただきました。温かい真心に感謝申し上げます。  
(令和2年8月19日現在)

#### <寄附金>

令和2年7月 7日 株式会社ブリッジさまより	
社会福祉事業のために	20,000円
令和2年7月10日 第一三共グループ社員一同さまより	
法人のために	200,000円
令和2年7月31日 株式会社河北新報社さまより	
社会福祉のために	55,291円
令和2年8月 6日 株式会社ブリッジさまより	
社会福祉事業のために	20,000円

### ● 会員を募集しています

宮城県社会福祉協議会では、本会の理念・活動に賛同していただく方を会員として募集しています。

#### 【会員になると】

- 福祉みやぎ(本会広報誌)を発行の都度送付します。
- 本会が主催する、イベントのご案内をします。

#### 【会員の種類】

- ・第一種会員(市町村社会福祉協議会)
- ・第二種会員(社会福祉施設)
- ・第三種会員(社会福祉関係団体)
- ・賛助会員(団体及び個人)

詳細は本会ホームページにてご覧いただけます。

[http://www.miyagi-sfk.net/about/member/node\\_629](http://www.miyagi-sfk.net/about/member/node_629)

#### 【お問い合わせ】

宮城県社会福祉協議会 総務部 TEL: 022-225-8476



## ボランティア・福祉活動行事保険をご利用ください

日帰りの行事中に参加者や主催者がケガをした場合の「傷害保険」と主催者が法律上の賠償責任を負った場合の「賠償責任保険」の2つの補償がセットになった保険です。福祉活動を目的とした団体・福祉的な活動のための保険です。団体性・行事内容により、お引き受けのできない場合もございますので、ご注意ください。

#### 日帰り行事の場合には、内容により保険料が異なります。

A区分 高齢者スポーツ大会、お茶のみ会、各種教室など	30円
B区分 運動会、日帰りキャンプ、サイクリングなど	136円
C区分 サッカー、ラグビー、スキーなど	266円

お問い合わせ みやぎボランティア総合センター  
三井住友海上火災保険株式会社  
(株)オンワード・マエノ

TEL022-266-3951  
TEL022-221-3171  
TEL022-762-9915

※この制度の各補償は宮城県社会福祉協議会が保険会社と締結した保険約款により行います。

熱中症の補償も付帯  
されてますます安心!  
(日帰り行事のみ)

この印刷物は、植物性油インキを使用し、環境にやさしい水なし印刷方式を採用しています。



「福祉みやぎ」は宮城県社協のホームページでもご覧になれます。また、ご意見、ご感想、とりあげて欲しいテーマなどをお寄せください。表紙の作品も募集しています。

# 「高次脳機能障害」を「存知ですか。」

「つながり」 どんまいネットみやぎ

高次脳機能障害は脳の障害です。主に人間にしかない機能を司っている大脳皮質の高次機能に係る部位が損傷したことで起こる後遺症で、脳梗塞等による病気や交通事故やケガ等により誰でもなり得る障害です。主な症状として、失語症、記憶障害、注意障害、遂行機能障害、社会的行動障害などがあります。外見からは障害というのが分かり難いことから、適切な支援が受けられず、また本人も家族も福祉の支援を利用したことがないために、医療と福祉の狭間で社会生活から遠ざかってしまう事も少なくないのです。

## 「どんまいネットみやぎ」の設立の経緯

東日本大震災で被災した気

どんまいネットみやぎは医師、医療関係者、福祉関係者等が集まった組織であることから、毎月1回のカンファレンス（症例検討会）を行っています。高次脳機能障害の対象者ご本人と家族の方、支援者の方にもご参加いただき、医療情報や検査結果の解説と支援者からの話を聞きながら、現在の状況と今後についての検討会を行っています。それぞれに障害の状況や支援の違いもあり、いろんな視点から意見を出し合い、悩みや今後の方向性を考えるサポートを行っています。

## 「ほっぷの森」との共同活動

どんまいネットみやぎの活動の拠点は、「特定非営利活動法人ほっぷの森」内にあることから、ほっぷの森の就労移行支援事業所である、就労支援センターほっぷを利用していただく方が6割から7割が高次脳機能障害の方です。同

仙沼地域を中心に宮城県における高次脳機能障害の当事者、家族を支援するチームをサポートする目的で2012年6月に設立しました。高次脳機能障害の国の支援モデル事業に関わった医療関係者、福祉関係者を中心に、継続的な支援の必要性を感じ、宮城県における支援ネットワークの構築を目指しています。当事者、家族が自分の住んでいる地域の近隣で適切な情報や支援を受け、さらに就労を目指すことができるよう、2019年4月に法人化し1人1人に合った支援を他機関と連携しながら取り組み、更なる情報提供と支援を行っていきたくと考えています。（どんまいネット相談支援センター開設）

じ高次脳機能障害の方との出会いから、お互いに刺激し合い自分を振り直せたり、一緒に何かを成し遂げていったりすることで、奇跡的な回復や社会復帰に向けた活動意欲に結びついています。



▲就労支援センターほっぷの活動

## 「宮城県の各圏域との連携と課題」

見えない障害と言われる高次脳機能障害は、外見上は普通の人と見られがちで、なかなか適切な支援に繋がらないです。また支援組織として機能していない地域もあり、宮城県の保健福祉事務所（7圏域）と連携し、高次脳機能障害支援者ネットワーク会議、研修会を

## 「どんまいネットみやぎ」の活動

毎年1回から2回、高次脳機能障害又は若年性認知症の専門家をお招きして、当事者や家族、一般の方までを対象とした、「宮城高次脳機能障害リハビリテーション講習会」を開催しています。専門的な情報を講演していただくことで、症状の回復や職場復帰、社会参加に向けたきつかけや支援、そして何よりこの障害を多くの方々知っていただくことを目的としています。（2020年度 第1回宮城高次脳機能障害リハビリテーション講習会は、令和3年1月16日（土）仙台市医師会館にて開催します。参加費無料（動画の配信も予定）



▲リハビリテーション講習会のチラシ

開催し、活動報告、取り組み、今後の課題について情報交換を行っています。障害の種類や重症度が異なり、一人一人の障害を正しく理解し、適切な支援に繋いでいくためには、ネットワークの構築は勿論、支援する側の力量も求められています。

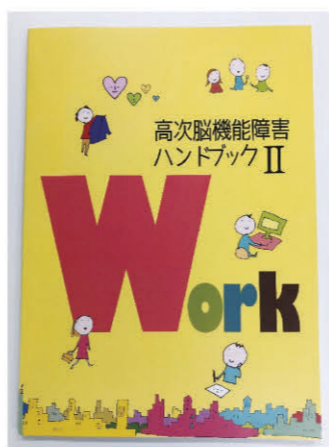
## 「高次脳機能障害ハンドブックⅢ」

現在、「高次脳機能障害ハンドブックⅢ」の作成の準備にとりかかっています。高次脳機能障害についての認識はまだ不十分とは言えず、これまでの活動を通して社会復帰を果たし、生き生きと活動している事例や就労している事例を紹介し、これからは高次脳機能障害の社会的理解や当事者や家族の応援になればと思っています。

「ピアサポーター＆リンクサポーター養成講座・実践講座」の開催も毎年行っています。宮城県の各圏域にある医療機関にご協力をいただき、専門家の方に講師をお願いしています。その他、当事者の方による体験談や、就労支援事業所の事例などの講演も盛り込み、全5回（1回2講演）の養成講座と、全3回の実践講座を行っています。講座の最後には、参加者の方々の交流や意見交換を行う場としてグループワークを行い、当事者、家族、支援者に分かれ話を共有することで、お互いを感じ、認め合い、支えていく活動や支援に大きく影響を与えているのを感じています。養成講座の修了者には、修了証書を授与しており、今後の活動の励みになっていただければありがたいです。



▲ピアサポーター養成講座の様子



▲高次脳機能障害ハンドブックⅡ

一般社団法人どんまいネットみやぎ  
宮城高次脳機能障害連絡協議会

電話:022-797-8801 FAX:022-797-8802  
メールアドレス:info@donmainet.com  
HP:www.donmainet.com

宮城県仙台市青葉区本町1-2-5  
第三志ら梅ビル4階ほっぷの森内

お問い合わせ

# ハート アンド ワークス Heart & Works

## 障害のある方の「働く」を応援します！

### 仙台市障害者就労支援センター

仙台市障害者就労支援センターは国や県の制度にはない仙台市独自の相談支援機関です。仙台市にお住まいの障害のある方が一般企業で働くための様々なサポートを行っています。障害のある方ご本人はもちろん、障害のある方を雇用したい企業の方、福祉関係機関等の支援者へのサポートも行います。社会福祉法人仙台市障害者福祉協会が指定管理者として管理運営しています。



### 障害のある方へのサポート

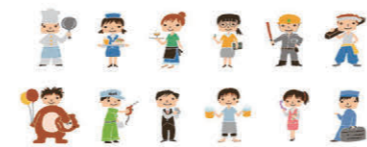
自分に合った仕事を見つけて長く働き続けられるよう、お一人お一人のニーズに寄り添って支援します。働く準備をするための訓練を希望する方には適切な機関をご紹介します。

### 働きたい障害のある方向け説明会

当センターのサポート内容をご紹介します。一般の企業で働くための準備のことや働くための準備をする訓練施設などもご案内しています。障害のある方ご本人だけでなく、ご家族、支援者の方など、どなたでもご参加頂けます。

毎月第2、第4水曜日の10時から開催しています。参加は事前予約制です。詳しくは、当センターの

### 働きたい障害のある方向け説明会



仙台市障害者就労支援センター

ホームページをご覧ください。

### 就職活動の支援

ご本人の障害特性や企業へ伝える配慮点などを一緒に整理します。履歴書や職務経歴書の作成、面接練習などのお手伝いもしています。仕事の適性などを見極める職業評価やジョブコーチによる支援は宮城障害者職業センター等と連携して協働で支援します。

### 就労後の相談

仕事が決まってから職場に慣れるまでの支援を行います。仕事を続けるうちに出てきた就労上の困りごとを解決するお手伝いもします。

### 障害のある方を雇用したい企業の方へのサポート

障害のある従業員を雇用するお手伝いをします。社内の理解啓発や障害のある方に担当してもらう業務の切り出し、採用活動から採用後に出てきた困りご

との相談まで一貫したサポートを行っています。

### 企業見学会、企業実習

障害のある方が企業の現場を見学して実際の作業を実習するお手伝いをしています。雇用のミスマッチが減って企業の方からは好評をいただいています。障害のある方にも好評です。



仙台市以外にも事業所がある企業の見学会は障害者就業・生活支援センター「わくく」と協働して実施しています。

### 企業内の障害理解を深める勉強会

基本的な障害の理解、業務上の配慮や工夫などについてお話しています。内容はご相談に応じます。採用予定の方の障害特性を理解するものや就労支援を

行っている施設の見学なども実施しています。毎年、約30社の企業からご依頼を頂いています。今年度は、オンラインでの実施も試行しています。



### 障害のある方の雇用を支援する福祉関係機関等の支援者へのサポート

障害のある方の雇用を地域全体で支援する力を高める取り組みを行っています。支援者の支援スキル向上研修や連絡会議の開催、ネットワーク拡大などに取り組んでいます。

### 支援者の支援スキル向上のための研修会

就労を支援している施設の支援者が企業の方と直接意見交換

する機会を設けたり、企業の人事担当者から採用の視点を学ぶ研修会を開催したりするなどして、支援者の支援スキルの上を目指し取り組みを行っています。



### 就労支援ネットワークの拡大

仙台市内の就労移行支援事業所や支援機関が情報交換する就労移行支援事業所等連絡会議を開催しています。連絡会議で挙げられた

課題は、有志のメンバーが参加するワーキンググループで解決策を検討します。



## 仙台市障害者就労支援センター (指定管理者 社会福祉法人仙台市障害者福祉協会)

〒981-3133  
宮城県仙台市泉区泉中央2丁目1番1号 泉区役所東庁舎5階  
電話:022-772-5517  
FAX:022-772-5519  
URL: <http://www.sendai-wsc.jp/>

## 宮城県福祉人材センターとは？

- 社会福祉法に基づき、宮城県知事の指定を受けて宮城県社会福祉協議会に設置されています。
- 職業安定法に基づき、厚生労働大臣の許可を得て行っています。
- 福祉に関する求人票を取扱い、求職者と求人事業所からの相談を無料で受け付けています。
- 福祉の職場説明会、ハローワークでの出張相談、各種講習会を開催し、福祉人材の育成・発掘や総合的な広報・啓発を行っています。

### 再就職準備金貸付制度

#### 介護



即戦力として期待される介護職経験者に対し、介護職員等として再就職する際に必要な費用をお貸しします！！

下記の①～④をすべて満たす方が対象です。

- ①介護職員として1年以上の実務経験のある方
- ②介護福祉士有資格者又は実務者研修、介護職員初任者研修、ヘルパー1級・2級課程、介護職員基礎研修のいずれかを修了した方
- ③介護職員等として、宮城県内の介護施設等に勤務し、3か月以内の方
- ④介護職員等として離職後、再就職までに宮城県福祉人材センターに求職届出（登録）をされた方

貸付額 40万円以内（1回限り）

#### 保育



保育士資格を有し、保育士として勤務していない方の再就職支援を図るため、再就職のために必要な費用をお貸しします！！

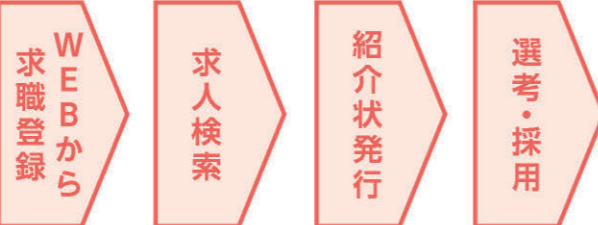
下記の①～④をすべて満たす方が対象です。

- ①保育士登録を行った方。ただし、養成施設卒業生の場合は、卒業後6か月以上経過した方
- ②保育所等で勤務経験があり、離職した方。又は、勤務経験のない方
- ③新たに宮城県内の保育所等で保育士として勤務し、3か月以内の方
- ④保育士養成施設在学期間に保育士修学資金の就職準備金を借りたことがない方

貸付額 40万円以内（1回限り）

### WEBサイト「福祉のお仕事」

全国社会福祉協議会・中央福祉人材センターが運営する福祉分野の求人情報に関する日本最大のWEBサイトです。  
こちらから、求職登録や求人票登録ができます。



### 介護の資格届出制度

介護福祉士等の資格をお持ちの方は福祉人材センターへの届出が努力義務となっています。

- ・介護福祉士
- ・介護職員実務者研修
- ・介護職員初任者研修
- ・ホームヘルパー1級 など

福祉に関するニュース記事や研修会案内など、定期的に情報提供しています。



## ひと ところ まち

## 子どもの成長と親の育みを支えます 大崎市子育てわくわくランド

大崎市は、県北西部に位置する、面積796,81km<sup>2</sup>、人口129,444（令和元年12月末現在）のまちです。  
令和元年11月、大崎市子育て支援拠点施設（愛称「わいわいキッズ大崎」）がオープンしました。わいわいキッズ大崎は、子育てわくわくランドと古川中央児童館の2つの施設を合築し、幅広い年齢の子どもたちが一緒に利用できる施設です。

これまでの子育てわくわくランドは、園庭や子育てサークルなどが利用できるようなスペースや設備が不足していたことや、児童館の老朽化や利用児童の増加に伴い、建て替えを検討してきた経緯から、二つの施設を合築することで、これまでの子育て支援サービスに加え相談機能も充実させ、利用者の皆さんと共に成長をしていく施設を目指して開設しました。

昨今の子育て支援に対する多様なニーズに対応していくため、「子どもの笑顔があふれ、子育てを楽しめる、子育て支援拠点施設」を基本方針に、次の4つの理念のもと事業を運営しています。

①「子どもたちが遊びを通じて学び合う施設」異年齢の子どもたちが交流し、社会性を学べる、生きる力を身に付ける遊びの場であること。

②「働けながら子育てができる、保育サポート体制の整備」保護者が働けながら、安心して子育てができる施設であること。

③「地域の子育て力の育成・支援」サークル活動や保護者が集う場を提供し、育児の悩みや不安を相談でき、地域全体で子どもたちを見守り、子育てを支える施設であること。

④「保護者にやさしい施設」保護者の不安や悩みに、専門的なアドバイスや情報を提供し、親子の毎日の生活がより一層充実する施設であること。

子育てわくわくランドの子育て支援サービスとしては、つどいの広場の提供、子育てサポート保育、地域子育て支援事業、ファミリー・サポート・センター事業、相談事業を行っています。

つどいの広場は、未就学の親子が対象の遊べる広場です。登録制としており、未就学児の子どもと保護者が遊び、交流できる場です。移転を機に、戸外でも遊べるスペースも新たに創出

しました。月に2回設定しているすくすくの日には、身長や体重の測定、栄養士による栄養相談、助産師や保健師によるなんでも相談も行っていきます。

子育てサポート保育も登録制で、生後6か月から就学前までのお子さんを対象に、保護者が用事を済ませたり、リフレッシュするために、子どもを一時的に短時間お預かりしています。利用には事前予約が必要で、料金は1時間600円となっております。

地域子育て支援センター事業では、生後3か月児から年齢別サークルを実施し、ふれあい遊びや体操、戸外遊びのほか、手作りおもちゃを作ったり、親子で楽しめる活動を実施しています。他にもツインズ（ふたご）サークルや、公民館に出向いての地区サークル、子育ての悩みを相談できる育児相談を行っています。

ファミリー・サポート・センター事業は、子育てを手伝ってほしい人（依頼会員）と子育てをお手伝いできる人（提供会員）に登録いただき、手を取り合うこと助け合うことをお手伝いする事業です。

本来、わくわくランドは、年



お問い合わせ先  
大崎市子育てわくわくランド  
（大崎市子育て支援拠点施設内）  
〒989-6174 宮城県大崎市古川千手寺町二丁目3番1号  
電話：0229-24-7778

未成年始以外の午前9時から午後5時まで、毎日運営しており、未就学児の親子であれば、大崎市以外の皆様も利用できる施設ですが、現在は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、大崎市以外の皆様の利用や時間等の制限を行っています。コロナウイルス感染症の状況に応じて、事業を再開していく予定ですので、その時は、皆さん、ぜひ遊びに来てくださいます。職員一同お待ちしております。



宮城県福祉人材センター  
TEL : 022-262-9777  
貸付専用 TEL : 022-399-8844



# 路上生活者に救いの手 コロナ禍での『仙台夜まわりグループ』

新型コロナウイルス感染症の影響により、仙台市内では職を失った路上生活者への救済活動が広がっています。『仙台夜まわりグループ』は炊き出しを行い、ホームレスの方々や生活困窮者への生活支援を行っています。今号では、活動開始から20年目を迎え、コロナ禍での支援活動に奔走するグループの活動を紹介します。

## バブル崩壊からの20年

「目の前のことに手を差し伸べているうちに、20年が経ちました。」と語るグループ事務局長の青木康弘（あおきやすひろ）さんは、活動を始めた経緯を次のようにも話して下さいました。「当時、年間10人前後の人が路上で亡くなっている事実がショックを受けました。活動を開始した2000年1月、当時市内には3000人を超える路上生活者が居たとされ、炊

き出しやシャワー浴を提供しながら彼らに寄り添ってききました。」その後2008年のリーマンショック、2011年3月には東日本大震災の発生と、次々と社会的弱者の生活を脅かす事件が起こるたび、青木局長はセーフティネット機能の不備・不足を補おうと彼らに寄り添ってききました。

## 居場所の創出

現在の活動の一つに、『大人食堂』があります。グループでは、不定期ですが仙台市宮城野区にある「みやぎNPOプラザ」の一角を借りて、『大人食堂』と称した食事を提供しています。取材した日は、新型コロナウイルスの感染拡大に注意しながら20名程の参加者が、振舞われたおにぎりやみそ汁を味わっていました。食事をとる人、新聞を読む人、散髪ボランティアによるサービスを受ける人、それぞれの落ち着いた時間を過ごされていました。



▲ボランティアによる散髪サービスを受けています。さっぱりして、爽やかな気分！

「大人食堂を始めたのは、日頃、敷居のない人目に付くところで寝食し、移動しながら生活している人たちに、ゆつくりとしたひと時を送ってほしいという想いからです。支える側と支えられる側という壁をなくして、参加者みんなが主体的に活動できるようにという思いが、名前に込められています。」と語る青木さん。大人食堂は、お腹と心の両方を満たすと共に、参加者の主体性を大切にしている居場所でした。

## 今後の取り組みと想い

これまでの20年の活動の中にも様々なことがありましたが、今まさに新型コロナウイルス感染症拡大の影響による問題に直面しています。この状況を青



▲大人食堂で、青木さんが給付金の説明をしています。参加者は熱心に話を聞いています。

## おらほの支えあいマップ わくや

涌谷町社協は、地域の要援護者や気になる方を支援するために、災害救援福祉マップや見守りネットワーク作りを住民と共に行ってききました。東日本大震災以前から行ってきたこれらの取り組みですが、昨年から、住民自らが地域生活課題に気付くきっかけになればと、名称を「おらほの支えあいマップ わくや」と新たにし、町内全ての行政区で住民と共に作成しています。さらに、支えあいマップと一緒に作成した支援対象者名簿を活用することで、自分たちの地区に暮らす、気になる人の存在に気づき、支え合いの意識が醸成されつつあります。町社協地域支援係長の稲川さんは要援護者への具体的な支援を「専門職を交えて支えあいの体制づくりを検討していきたい」と言い、福祉事業所連携推進会議も立ち上げるなど災害時の救援活動に活きる体制作りを目指しています。



▲おらほの支えあいマップ わくや、作成の様子

## 普段からのつながりなくして、災害時の支援は存在しない

マップと支援対象者名簿は、令和元年東日本台風（台風19号）の際にも活用され、地域住民の見守り等に効果的でした。支援対象世帯は民生委員等と共有され、社協職員と共にマップと名簿を基にした訪問が行なわれました。訪問を通じて吸い上げられた情報は、地域包括支援センターとも共有されました。認知機能の低下が疑われる高齢世帯では、「認知症初期集中支援チームを結成し、専門医につないだり、介護保険の申請を勧めるなどの支援も行っている」と話してくださったのは、涌谷町地域包括支援センター主査の中野目さん。地域生活課題の解決に向けて包括的支援が展開されています。



▲相談支援包括化推進会議

## つながり それぞれの強み

涌谷町社協は地域住民とともに「地域力強化推進事業」を進めている一方、涌谷町行政は「多機関の協働による包括的支援体制構築事業」を展開し、様々な機関との支援ネットワーク作りを進めています。「地域生活課題が複雑化しているなかで、多機関が関わる支援体制が無ければ、地域の中で課題の解決は図れない。2つの事業の一体的な実施が必要」と稲川さんは話します。地域とのつながりが強い涌谷町社協、多機関との連携体制や専門性をもっている町行政、それぞれが強みを活かして、地域共生社会の実現に向けた地域づくりを強化している、涌谷町社協の取り組みに期待しています。（宮城県社協取材）

（宮城県社協取材）

## 他人事を我が事として、住民が主体の地域課題の解決へ

～ 涌谷町社会福祉協議会の取り組み ～

地域住民が、主体的に地域の課題を把握し、解決を試みることができる体制の構築が各地で進められています。「地域共生社会」の実現に向けて、「地域力強化推進事業」を進めている涌谷町社会福祉協議会（以下「涌谷町社協」という。）の取り組みを紹介します。

### 涌谷町社会福祉協議会

人口 / 15,739人  
(令和2年5月末日現在)  
涌谷町社会福祉協議会  
社協職員数 / 123人

〒987-0121  
宮城県遠田郡涌谷町涌谷新下町浦192



丸森町「本来の姿」を目指して  
～仮設団地でのつながりづくり～

「国際NGO 特定非営利活動法人  
オペレーション・ブレッシング・ジャパン」の取り組み



▲雨天時は屋内で、参加者同士の距離をとって体操します。

ラジオ体操が生活の一部に

令和元年東日本台風(台風19号)により大きな被害を受けた丸森町では、町内6か所に仮設住宅団地が建設され、現在約170世帯360名の方が生活しています。各仮設団地では、週2回ラジオ体操を実施しており、住民の運動不足解消や仮設団地内でのコミュニティ形成につながっています。

そのラジオ体操活動の中心となっているのが、オペレーション・ブレッシング・ジャパン。活動を担当している藤本緑さんは昨年12月に丸森町の仮設団地へ支援に入り、当初は集会所へ物資の提供を行ない、2月頃からコミュニティ形成支援としてサロン活動を開始しました。その後、新型コロナウイルスの影響によりサロン活動を継続することが困難となった藤本さんは、住民からの「体を動かすことが少なくなった」という声を受け、屋外でできるラジオ体操を行うこととしました。藤本さんによると「ラジオ体操を始めたばかりの頃はよそよそしさがあったが、最近では住民同士で声を掛け合っただけで参加を促している」とのこと。いつも参加しているという住民は「ここの体を動かして、皆と話をすることを毎

週楽しみにしている」と話しており、参加される方々の生活の一部として定着している様子が伺えました。

いずれは住民主体の活動へ

藤本さんの丸森町での活動は、仮設団地でのコミュニティ形成の目的がつかまでという期限のある活動です。「私たちがいない状態が丸森町本来の姿」と話す藤本さんには、いずれは住民が主体となり、ラジオ体操などの活動を実施してほしいという思いがあります。そのため、徐々にラジオ体操の運営を住民へ引き継いでいくように、準備や後片付けなどを手伝ってくれた方を募集し、名乗り出てくれた方に役割を担ってもらっています。

また、地元で住民への支援を続けていく丸森町社協に活動をつなぐことも意識しているとのこと。仮設団地の見守り・訪問活動を実施している丸森町社協地域支え合いセンターとの情報共有会



▲体操後は水分補給をしながら会話をします。

議を月1回開催するほか、定期的に社協を訪れ、活動の中で気になった住民について報告し、情報共有しています。お互いに持っている情報を共有し、それぞれの活動に活かしており、「丸森町社協」といい形で連携できている」と話します。

丸森町「本来の姿」を目指して

新型コロナウイルスの影響により、これまでと同じような活動ができず、迷いながら活動してきたという藤本さん。徐々に手伝ってくれた住民や、体操後にお茶を飲みながら歓談する住民の数が増えてきました。そのような住民の変化をみて、「迷いながらもあつたが、活動を続けてきてよかった。体操そのものが目的ではなく、様々な活動を通して心と体が元気になってほしい。」と話します。

住民が主体となり様々な活動を行なえるように、また、住民同士が互いに気にかけてあう関係がつけられるように、「本来の姿」を目指し、藤本さんの丸森町での活動は続きます。

(宮城県社協取材)



会長就任のいぶらわし

社会福祉法人 宮城県社会福祉協議会  
会長 加藤 睦男

昨今の地域社会を取り巻く環境は、急速な少子高齢化により家族間の支え合いや地域でのつながりが弱まるとともに、福祉ニーズが多様化・複雑化し、既存の社会保障や福祉政策による対応のみでは解決することが難しい状況となっており、国においては、地域共生社会の実現を図るため、市町村の包括的な支援体制の構築の支援、地域の特性に応じた認知症施策や介護サービス提供体制の整備等の推進、介護人材確保及び業務効率化の取組の強化、社会福祉連携推進法人制度の創設等に向け動き出しております。

また、現下の新型コロナウイルスの感染拡大により、地域における市民活動・ボランティアや生活支援・地域づくりの取組にも著しい影響を受けており、地域福祉活動においても新型コロナウイルスを想定した「新しい生活様式」を踏まえた対応が求められております。

このような時期に宮城県社会福祉協議会会長に就任いたしましたことと大変大きな責任を感じ、身の引き締まる思いですが、今後の厳しい社会情勢を念頭に置き、危機感をもって一層の地域福祉の展開と法人の適切な運営に努めますとともに、県・市町村・市町村社協等との連携を一層深めて地域共生社会の実現に向けて取り組んで参りたいと考えております。

今年度は、東日本大震災から10年の節目の年に当たり、その後の令和元年東日本台風を始めとする相次ぐ自然災害により、大きな被害を受けた各地域において、復興が進みつつ再生の動きがある一方、新たな地域コミュニティの構築などの課題への対応が必要な現状もあります。

本会といたしましても、経営理念として掲げる「誰もが身近な地域で安心していきいきと暮らせる地域づくり」の実現に向け、宮城の地域福祉を一層推進できますよう関係者各位と連携・協働し、一歩一歩着実に歩んでいきたいと考えておりますので、皆様におかれましては、これまで同様に御指導、御鞭撻を心からお願ひ申し上げます。

こんなことやっています

ここでは、宮城県社協の事業をご紹介します

中国帰国者支援・交流センター

中国帰国者支援・交流センターは、全国で7か所あり、東北地区では宮城県社会福祉協議会が国の委託を受けて運営しています。中国から帰国した方々が地域で安心して暮らせるよう日本語・パソコン教室の開設、生活相談や就労支援などさまざまな自立支援も行っています。また、帰国者同士や、地域の方々とのつながりを深めるため、各種交流会も開催しています。センター1階の交流サロンは、情報交換・憩いの場としてごなたでもご利用いただけます。



▲日本語教室



▲パソコン教室



▲卓球



▲宮城県社会福祉会館

【お問い合わせ先】

住所 仙台市青葉区本町3-7-4  
宮城県社会福祉会館内  
連絡先 022-1263-0948  
(相談専用) 022-1217-9388

「開館日・時間」

月曜日～土曜日  
午前8時30分～午後5時